

: 手足症候群（手や足裏にできる痛みのある皮膚障害）

出典：<https://pharma-navi.bayer.jp/hfs/about/prevention/stivarga>



薬物治療開始1週間程度前から尿素を含んだ保湿剤で予防しはじめます。
発症したらステロイド軟膏を塗ります。

③点滴の分子標的薬（ラムシルマブ：サイラムザ®）

肝がんの腫瘍マーカーAFP（アルファフェトプロテイン）値が400ng/ml以上の方が対象です。高血圧や蛋白尿は内服の分子標的薬と同様に起こる可能性はありますが、自覚的につらい副作用が比較的軽く、主に高齢の患者さんに適しているといえます。

- ◆ 分子標的薬はがんに特徴的な蛋白などを狙い撃ちするもので、治療に使う薬物は、現在は①が第一選択で、②の内服薬と③の点滴は第二選択以降となっています。
- ◆ 6種類の分子標的治療は、外来で行われ、実際にあらわれる副作用症状は個人による差があるため、患者さんやご家族がご自宅で副作用症状を観察して、医師や看護師へ気軽に質問や相談できることが、治療を長く継続して、効果を上げるうえでとても大事になってきます。分子標的治療について、お困りのことがありましたら、主治医、看護師、薬剤師、第4診療センタースタッフなどへお声がけください。

《著者紹介》

庄村 雅子（しょうむら まさこ）



東海大学医学部看護学科
1971年生 神奈川県出身
1993年 千葉大学看護学部卒
2007年 東京医科歯科大学大学院修了
博士（看護学）

外来で分子標的治療を受けている肝がん患者さんにご家族の看護支援を担当しています。

